

7日 月曜

ルカ

19:28 これらのことを話して後、イエスは、さらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。

19:29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、

19:30 言われた。「向こうの村に行きなさい。そこにはいると、まだだれも乗ったことのない、ろばの子がつかないであるのに気がつくでしょう。それをほどこいて連れて来なさい。」

19:31 もし、『なぜ、ほどこくのか。』と尋ねる人があつたら、こう言いなさい。『主がお入用なのです。』」

19:32 使いに出されたふたりが行って見ると、イエスが話されたとおりであった。

19:33 彼らがろばの子をほどこいていると、その持ち主が、「なぜ、このろばの子をほどこくのか。」と彼らに言った。

19:34 弟子たちは、「主がお入用なのです。」と言った。

19:35 そしてふたりは、それをイエスのもとに連れて来た。そして、そのろばの子の上に自分たちの上着を敷いて、イエスをお乗せした。

19:36 イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。

19:37 イエスがすでにオリーブ山のふもとに近づかれたとき、弟子たちの群れはみな、自分たちの見たすべての力あるわざのことで、喜んで大声に神を賛美し始め、

19:38 こう言った。「祝福あれ。主の御名によって来られる王に。天には平和。栄光は、いと高き所に。」



19:39 するとパリサイ人のうちのある者たちが、群衆の中から、イエスに向かって、「先生。お弟子たちをしかってください。」と言った。

19:40 イエスは答えて言われた。「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」

旧約の預言どおりにイエス様はろばの子に乗って、エルサレムに入られました。歴史上この都の王になる者は誰もが、殺し合いと支配によって入りました。それとは全く対照的にイエス様は平和の王として、入城されました。それも馬ではなくろばに乗ってでした。平和をもたらすのに、戦いではないということなのです。

イエス様はまさに平和の王であることを覚えて、日常生活でも、あくまでも平和を求めてゆきましょう。神様が愛の神である以上、平和を求めることが最終的には力になるのです。心しておきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

